★北海道新時代#02★

中学生と考える第9期北海道総合開発計画

～北海道はなぜ日本の課題解決に期待されているのか～

石岡　秀介（いしおか　しゅうすけ）
札幌市立元町中学校　社会科教諭

中学校社会科教諭。社会の動きと地域が持つ魅力や課題に重点を置き、生徒がそれらに目を向け、主体的に考え行動できるような授業づくりに取り組んでいる。北海道社会科教育研究会に所属し、教材研究や実践交流にも参加している。

令和６年11月に開催された第57回全国中学校社会科教育研究大会北海道大会において、中学２年生を対象に、地理的分野の公開授業を実施しました。本授業では、国土交通省が策定した「第９期北海道総合開発計画（以下「開発計画」という。）」に着目し、北海道の地理的特徴や、食料・観光・エネルギー産業の成立条件を自然、社会的条件など多面的に考察しながら、持続可能な地域づくりに向けた課題について、生徒と共に考える学習活動を展開しました。

１　はじめに　～なぜ開発計画を取り上げたのか～

中学校社会科の地理的分野「日本の諸地域」では、北海道地方について学ぶ単元があります。北海道に暮らす中学生にとって、北海道の自然や気候、特産物などについては日々の生活の中で見聞きし、体感していることも多く、授業の中で「知っているつもり」になってしまう場面も見られます。そのため、学習を通して北海道地方をあらためて探究する意義や、地域の魅力・課題に気付く視点を育むためには、どのような題材を取り上げるべきか、私自身、いつも頭を悩ませていました。

そんな中、開発計画の存在を知りました。「他で代替できない北海道の価値」を最大化し、現下の国の課題解決を先導――このフレーズに大きな可能性を感じ、この開発計画を軸に単元を構成しようと考えました。その理由は大きく２つあります。

１つ目の理由は、多様な魅力や価値がある北海道の中で「食料安全保障」「観光立国」「ゼロカーボン北海道」を主要施策として取り上げていることが、生徒の学びを焦点化できると考えたからです。

これらの施策は、気候や自然、立地など北海道ならではの地域的特色と深く関わっており、地理的条件と社会的課題の関係を具体的に学ぶことができます。

また、２つ目の理由として、開発計画を題材としたパフォーマンス課題※に取り組むことで、生徒は教科書の学びが自分たちの生活空間や未来へとつながっていることを実感できると考えたからです。学習指導要

※　パフォーマンス課題
学習内容をもとに、より実践的な力をはぐくむことを目的とした課題。社会科では、社会的な事象や問題を知識・技能を総合的に活用して解決する活動を通して、思考力・判断力・表現力などを評価する課題。

領でも重視される「社会的事象との関わりの中で、よりよく生きる力を育てる」という視点からも、生徒が北海道の魅力や未来について自己の課題として社会に向き合う手がかりとなると感じました。

以上の理由から、単元課題を「北海道はなぜ日本の課題解決に期待されているのか～北海道の価値（ポテンシャル）とはなにか～」とし、開発計画を軸に北海道の未来について考える単元構成としました。

2　単元構成と学びの流れ

この単元は、全８時間の授業で構成しました。単元の導入では、「北海道と聞いて思い浮かぶことは？」と問いかけたところ、生徒たちは次のような言葉を挙げました。「広い」「農作物が多い」「寒い」「雪がすごい」「魚がとれる」「観光地がたくさんある」―。

こうしたイメージは、生徒たちが生活や旅行、ニュースなどを通じて自然と身につけてきたものであり、いずれも北海道の豊かな自然や地理的特徴を反映したものでした。

一方で、「北海道が日本の未来や課題解決にとってどのような役割を担っているのか」については、表面的なイメージにとどまり、北海道の価値や期待については十分に実感していない様子が見られました。

また、開発計画を紹介したところ、ほとんどの生徒がその存在や内容を知りませんでした。そこで、パフォーマンス課題として「北海道開発局の一員として、北海道の価値を地域住民に伝える」という目的を提示し、単元の学習をスタートさせました。

単元の序盤から中盤にかけては、北海道の地理的特徴を資料をもとに読み取り、確認しました。その過程で、開発計画にも示されている「食料安全保障」「観光立国」「カーボンニュートラル」の３つの視点に基づいてグループ分けを行い、それぞれのグループ内で、地域住民に開発計画の意義や効果を伝えるために、どの内容を取り上げるかを検討する“構成会議”を実施しました。

その会議に向けて、生徒一人ひとりが北海道の特徴について深く調べる中で、北海道が持つ価値（ポテンシャル）への理解を深め、多面的な視点から地域を捉えることができました。

終盤では、北海道の価値が2050年まで継続または高まるために、どのようなことが必要か、あるいはどのような課題を解決すべきかを考察しました。たとえば、食料安全保障チームでは「後継者不足の解消」「スマート農業への助成」「ブランド化による輸出強化」などの意見が挙げられました。

最後に、生徒たちは開発局の一員として、地域住民役を担う他グループに向けて、自分たちが調べた北海道の価値についてプレゼンテーションを行いました。そこで、生徒たちは「食料安全保障」「観光立国」「カーボンニュートラル」という異なるテーマの価値を共有し合うと同時に、共通する課題の存在にも気付くことができました。

こうした学びを通して、北海道の価値や課題に対する理解をより一層深めることができました。

3　学びを通した成果

単元の振り返りでは、「農業と再生可能エネルギーの両立によって、環境にやさしい北海道をつくりたい」「北海道の自然環境を守ることが、食料生産や観光資源の確保につながることが分かった」「北海道の地理的特徴が再生可能エネルギーの生産に適していることを広めたい」など、未来に向けた多様な視点が表現されました。

これらのまとめから見えてきた成果として、以下の２点が挙げられます。

⑴　社会参画への意識と資質・能力の育成

生徒たちは、開発計画という現実の政策課題を扱うことで、「教室での学びが実社会や未来につながっている」という実感を得ることができました。自ら問いを立て、資料から情報を収集し、議論を通してグループの意見を構築するというプロセスを通じて、情報活用能力や批判的思考力、論理的表現力の向上が見られました。特に、「自分の“推し”を構成会議で主張する」

という活動は、生徒にとって主体的に学ぶきっかけとなったようです。

⑵　北海道への理解と愛着の深化

「これまで当たり前だと思っていた北海道の自然や広さが､日本の未来に役立つことを知って驚いた」「北海道の価値に自信をもち、それを守り続ける必要がある」といった感想が多く見られました。漠然としていた北海道のイメージが、地理・産業・政策と結びつくことで、より具体的かつ多面的な理解につながったといえます。「自分たちの地域には、日本の課題を解決する可能性がある！」という思いをもった生徒は、地域への愛着を一層深めたことでしょう。こうした中学生は、これからの地域や社会を支える重要な「市民」となっていくはずです。社会科の授業を通して、そうした生徒が１人でも多く育っていくことを願っています。

4　終わりに　～中学生が北海道総合開発計画を学ぶ意義～

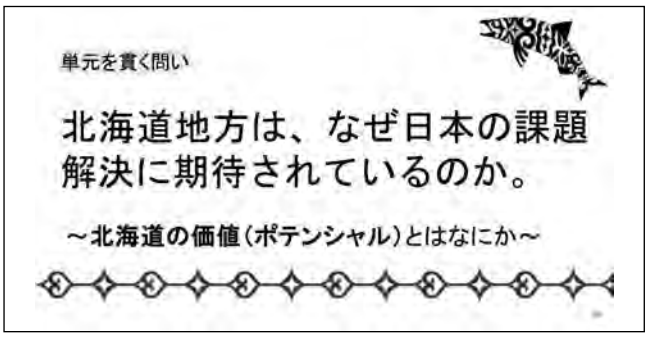
授業を通してあらためて感じたのは、「中学生は開発計画についてほとんど知らない」という現実です。しかし、この計画を題材とすることは、生徒にとって地域理解や未来について考えるための入り口になり得ます。教科書に記載された知識だけでなく、北海道が抱える課題や､国から期待されている役割といった“リアル”な情報に触れることは、生徒にとって強い学習動機づけとなります。ぜひ、多くの学校で北海道地方の学習における導入やまとめの場面で活用することを勧めたいです。

一方で、今回の学びが教室内で完結してしまったことも事実です。今後は、北海道開発局の方々を招いた出前授業の実施や、自分たちで調べたことや疑問点を北海道開発局に対してプレゼンテーションや意見表明する機会を設けることで、「学びが実社会とつながっている」という実感を生徒に与えられると考えます。そのためには、導入からまとめに至るまでの学習プロセスの中で、開発計画をいかに教材化するかという視点が重要になるでしょう。地図や動画などの教材をどの場面で取り入れるか、あるいは出前講座をどのタイミングで活用するかを整理することで、より効果的な学習が実現できるはずです。

このように、開発計画を通して北海道について学ぶことは､中学生にとっても､そして北海道の未来にとっても､大きな意義と効果をもつ学習だと感じています。生徒が社会と対話し、未来を担う市民の一員として考える学びを、これからも大切にしていきたいと思います。

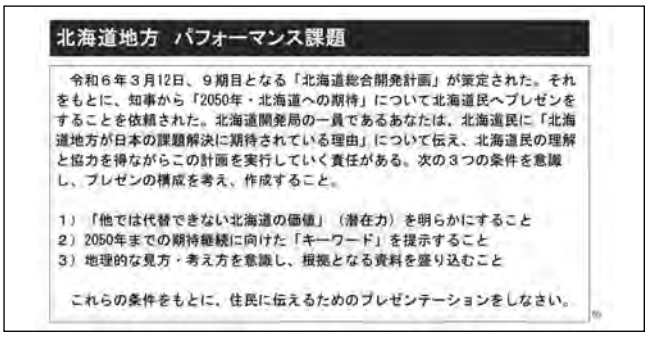
全国大会の授業の様子

スライド資料①単元を貫く問い



スライド資料②北海道総合開発計画の紹介

スライド資料③パフォーマンス課題



北海道地方　パフォーマンス課題

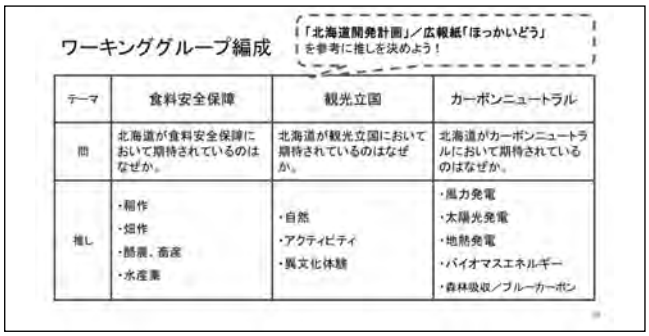
令和６年３月12日、９期目となる「北海道総合開発計画」が策定された。それをもとに、知事から「2050年・北海道への期待」について北海道民へプレゼンをすることを依頼された。北海道開発局の一員であるあなたは、北海道民に「北海道地方が日本の課題解決に期待されている理由」について伝え、北海道民の理解と協力を得ながらこの計画を実行していく責任がある。次の３つの条件を意識し、プレゼンの構成を考え、作成すること。

1）「他では代替できない北海道の価値」（潜在力）を明らかにすること
2）2050年までの期待継続に向けた「キーワード」を提示すること
3）地理的な見方・考え方を意識し、根拠となる資料を盛り込むこと

これらの条件をもとに、住民に伝えるためのプレゼンテーションをしなさい。

スライド資料④単元はじめの北海道に対する生徒のイメージ

スライド資料⑤ワーキンググループ



ワーキンググループ編成

「北海道開発計画」／広報紙「ほっかいどう」を参考に推しを決めよう！

テーマ	食料安全保障	観光立国	カーボンニュートラル
問	北海道が食料安全保障において期待されているのはなぜか。	北海道が観光立国において期待されているのはなぜか。	北海道がカーボンニュートラルにおいて期待されているのはなぜか。
推し	・稲作 ・畑作 ・酪農、畜産 ・水産業	・自然 ・アクティビティ ・異文化体験	・風力発電 ・太陽光発電 ・地熱発電 ・バイオマスエネルギー ・森林吸収／ブルーカーボン

単元を終えた生徒のまとめ

⑴　北海道はなぜ日本の課題解決に期待されているのか

生徒Ａ

北海道が日本の課題解決に期待されている理由は３つあります。そして今から挙げる３つは土地の広さが関係しています。

１つ目はカーボンニュートラルです。特に発電で、「北海道の土地が広くて人口が少ない」という特徴を活かし、風力発電などが盛んに行われています。風力発電は「大きい」「騒音」という問題点がありますが、前述した特徴がある北海道ならばそのような問題点を気にすることなく行えます。そして、土地は有限ですが、海の上でも発電ができ、洋上風力を利用できます。北海道は土地の面積に比例して、海岸線の距離が日本一長いです。なので北海道は陸での発電だけではなく、洋上での発電も盛んに行われています。これは北海道の特徴があるからこそできる発電方法であり、北海道が期待される理由になります。

２つ目は食料安全保障です。北海道は水産業、農業、畜産業などの多くの一次産業が盛んです。食料自給率は200%にも及びます。これも土地が広いからこそ広範囲で稲作・畑作ができたり、海岸線が長いからこそ、沖合漁業も盛んに行えます。こちらも土地の広さを活かした北海道が期待される理由と言えます。

３つ目は、観光立国です。北海道は魅力度ランキングで１位を取ったり、国内･外国人観光客もたくさん来ます。自然豊かで北海道のいろいろな場所にそれぞれ魅力があるのが理由だと考えられます。こちらも土地が広く人口が少ない特徴があるからこそ、自然がより多く映えます。そして、これも北海道が期待される理由になります。

北海道は土地の広さを活かし、カーボンニュートラル・食料安全保障・観光立国の３つの観点から期待されています。そして北海道はこの期待を継続するためにこれからも様々な取り組みに挑戦していくべきだと思います。

⑵　2050年までの期待継続に向けた「キーワード」はなにか（解決すべき問題点や取り組むべきこと）

生徒Ｂ

これらの北海道の価値を持続させていくためには、主に環境保全の取り組みが必要だ。食料安全保障では気候に対して対策をするべきである。北海道の作物はその寒冷な気候から成り立っている物が多く、地球温暖化などにより気温が上昇してしまえば作物が十分に育たない恐れがある。また、海の水温が上がると、寒流の魚に悪影響を及ぼしてしまいかねない。そのためにはカーボンニュートラルを促進させていくことが解決への一番の近道と言える。しかし、そのカーボンニュートラルを持続させていくためには、地形と人々を管理する必要がある。近年、北海道の森林ではゴミ問題が深刻化しており、ゴミから出た汚れは土に染み込んで木の成長を妨げてしまう。海岸も同様だ。そのため、森林の周りにフェンスなどをおいてゴミを捨てられないようにしたり、森林に勝手に入れないような条例を制定したりする必要がある。また、都市部のビルの屋上などに木を植えることでなくなった分の森林を補うようなこともしていかなければならない。このカーボンニュートラルを活性化させることは、後に食料安全保障を守ることにもつながる。